

白子川 源流通信

2008年12月 第25号

- 新河岸川流域フォーラム参加
- 大塚さんのメダカのDNAは？
- 第8回白子川源流まつり報告
- 「メダカ通信」紹介
- 白子川グッズの紹介
- 定例活動報告
- 投稿「大泉に越した頃の話」その1
- わら筆作りに参加して

「白子川源流・水辺の会」の会報誌



〈井頭橋〉 萩原 和雄

川のある町

白子川源流、いつも私たちをハラハラさせる。

満々と水をたたえた時は
これが永遠かのように思わせ
涸れきった時は、私たちを嘆かせる。
それでも、菜種梅雨のころには
大地の下を縫う湧き水という恵みによって
無数の命が一斉にはじけてくる。
季節のめぐりから遠ざかった私たちは
「良かった！」と微笑む。

そんなことが繰り返されてきた。

水が減りはじめた師走、井頭橋の上で想う。
生命をつなぐ“安住の地”を求めて
川の中をさまよう生きものたちの姿を。
自然との“呼吸合わせ”を
忘れてしまって久しい暮らしのことを。

私も、大泉という“川のある町”を
安住の地としたい。
来年も、その先もずっと
白子川に教わるのが続きそうだ。
———ありがとう、白子川。

(菅沢 博)

定例活動の報告

本田 純

■ 8 月 <8月24日(日)>

今年は蝉が多いような気がする。シャワーのごとく鳴き声が降り注いでいる。4月から湧水が回復して3ヶ月は豊かだったが、また少雨になり、火の橋下の流量は 62ℓ/秒にまで減った。

真夏で水温は高め、小雨が降っているのに pHの酸度が高い(木道で 6.1)。

この季節生き物が賑わって楽しい。カワモズクが井頭橋下で繁茂し始めた。カワセミが来た。

ツバメも。火の橋から下では、ハグロトンボが乱舞。交尾飛行も見られた。スジクロシロチョウ・セセリチョウも見られた。

ミズキンバイは区的环境保全課の調査の時、中流から移植してくれたものだそうだ。徐々に土着の植物がオオフサモに負けず戻ってきている。モツゴやギンブナ、ホトケドジョウは健在だった。

■ 9 月 <9月28日(日)>

雨量が戻り、火の橋下で 167ℓ/秒。梅雨の6月 170ℓ/秒に次ぐ2番目の記録。

井頭堰から水音を立てて湧水が溢れている。

・松殿橋上では、CODが 0 だった。

・pHは酸度が高い。

(木道で 6.0、松殿橋上でも 6.1)

今年はカワモズクが多い(写真)。

参加者も14名で賑やか。動植物の記録をとらなかった。反省。



■ 10 月 <10月26日(日)>

今月も火の橋下で131ℓ/秒と湧水量は豊富だ。写真は松殿橋上の水面だ。行政清掃が入って水

生植物が刈り取られたが、アシなどがまた芽吹いている。芽吹くように刈り取っていただいているのは嬉しい。根こそぎにしないでほしい。また来年もハグロトンボが来るだろう。

先月と同様湧水量は火の橋の下で 131ℓ/秒と豊富だった。

・水温は 17℃、

・pHは 6~6.5、

・電気伝導度は 230 μ S/cm、

・透視度は 125cm以上、

・CODは 0~2ppm
と良好な湧水の水質データを刻むことになった。



湧水は練馬らしい景観と密接

～「まちづくり講座」に出席～

菅沢 博

11月15日、まちづくりセンターからの依頼で、『練馬の景観“歩きたくなる街”づくり』をめざす講座のパネラーとして出席しました。

白子川しか知らない私が、景観の話に入れるか不安でしたが、実は、当会の湧水保全の活動が、ストレートに「練馬らしい景観」の保全に結びついていることに改めて確信した次第です。

白子川という自然をフィールドにしている当会は、景観づくり(まちづくり)の渦中にあるとも言え、活動の意義も多面的であることを学んだ有意義な場でした。

(私以外のパネリスト！)

- ・上野泰氏(ウエノデザイン・城南住宅組合)
- ・要久美子氏(Nerima景観まちづくり会議)
- ・浅井葉子氏(練馬区公園緑地課長)
- ・福井幸子氏(練馬区都市計画課主査)
- ・久間常生氏(東京建築士会練馬支部・まっぶす)
- ・中村仁氏(コーディネーター)

新河岸川流域フォーラム

～みんなで集める、流域の知恵！～ に参加して

本田 純

11月1日、ふじみ野市サービスセンターにて「新河岸川流域川づくり連絡会」と「新河岸川流域総合治水対策協議会」の主催で開かれた。流域の市民団体と関係行政の情報・意見交流の場である。

朝霞本町商店会の「商店会水族館の取組み」の発表が超面白かった。商店街の全店に黒目川の淡水魚が泳ぐ水槽を置き、住民に日頃から親んでもらう仕掛けを作るというもの。私も発言する機会を得た。白子川源流の現状を報告した。湧き水の涸渇や都市型水害を防ぐためには「総合治水」という合流下水道整備や川の拡幅を主とする考えから、雨水浸透や雨水利用の本格運用を主とする「総合利水」の考えへ！と述べた。

次の「里川」にその要旨が載る。

活動記録 (平成20年 6.15 ~ 11.30)

- 6月15日 第8回定期総会
- 22日 定例活動
- 7月 2日 南小白子川学習に協力参加
- 5日 聞き取り調査(高橋豊治さん)
- 12日 源流まつり実行委員会
町田ホテル鑑賞会
- 27日 定例活動
- 29日 都河川局より、川ボランティア表彰
- 8月 9日 源流まつり実行委員会
- 18日 会報『源流通信』発行
- 24日 定例活動
- 9月 6日 源流まつり実行委員会
- 7日 木製プレート焼印作業
- 27日 ワラ筆作り体験
- 28日 区エコアドバイザー養成講座講師
- 28日 定例活動
- 10月 5日 源流まつり実行委員会
- 9日 FM西東京に生出演(まつりPR)
- 12日 第8回白子川源流まつり
- 26日 定例活動
- 11月 1日 新河岸川流域フォーラム出席
- 15日 区「まちづくり講座」パネラー出席
- 23日 定例活動
- 30日 まちづくりセンター中間発表会

近隣グループ活動紹介



11月15日(土)、みどり広場で、みどり広場運営委員会主催の「やき芋大会」が開催されました。



ある晴れた秋の日の昼下がり、地元の大先輩である高橋豊治さんのお宅の庭の一角に、ブルーシートが敷かれた。“稲ワラで筆を作る”という、豊治さんの考案された、すばらしい技が伝授される。

まず、水で濡らした稲ワラを束ねて、筆の太さを決める。次に、一本のワラを木槌でたたいてやわらかくして、端からていねいに巻いていき、柄の部分を作る。最後に、筆先の部分を木槌等で丹念にたたき、繊維をバラバラにしていくのだ。トントントン…いろいろ端で、昔話でもしているような、日常とかけ離れた不思議な時間帯に入り込む…そして、太いもの、細長いもの、バサバサしたもの…個性豊かな作品が出来上がってきたところで、墨と紙が用意される。世の中にたった一つの自作の筆に、おもむろに墨を付け、思い思いにいたずら描きをした。普通の筆には出せない味のある、“かすれ”が、またいい。

豊治さんは、昔から身近にあった、日本文化の象徴ともいえる稲ワラを使って、全く新しいアイデアを思いついたのだ。そして、すぐに作ってみて、我々にも伝授して下さい。この昔ながらの技と、発想の自由さが、実にすばらしい。こんなに身近に、人生の大先輩ともいえるような方が、ごく普通にいらっしゃるといふ、感謝と感動の秋の日だった。

■私の散歩道にしている白子川に何時もの様に出かけた。「火の橋」に差し掛かると、自転車で遊びにきていた子ども(小学生低学年)8人ぐらいが、橋の下で小魚やえびがにめがけて盛んに石を投げつけては、わあわあと呼んで面白がって遊んでいた。

橋の中を覗き込んで「石！なげちゃ、だめだよ！やめろ～」と叫んでいた子がいた。子ども達は相変わらずやめない状況だった。

私が応援し大きな声で「やめろ！」とどなららみんな上を見た。「上に出ろ！」というどろどろと川の側壁はしごを上り、フェンスを乗り越えて地上にあがってきた。子ども達に川の生きものを大事にするように諭した。

橋の上からやめろ！と叫んでいた子に学校は何処と聞くと、大南小学校4年生と答えた。「明日、白子川のことで学習会があるので見に来た」とのことでした。白子川に下水が溢れると流



白子川によせて

山科 順

れ出る処を知りたいとのことで案内しました。白子川を大切にしている行動を褒めてあげ、「今年の君達の白子川発表会を楽しみにしているよ」といって握手して別れた。

■今年6月初旬に我家の車庫にツバメが巣を作りました。つがいの2羽が近くの白子川方向から休みなく、くちばしで土や糞を啜えてきては巣作りをはじめ、5日間という驚くべき速さで巣が完成した。

やがて巣の中に卵を産み、メス鳥が卵を温め6月下旬には孵化し、7月上旬には巣から産毛のままの子ども5羽が顔を出した。オス、メス寸暇惜しみなく交代で白子川めがけての餌取り、子育てが始まった。

近くに緑の樹木や清き水の流れがあればこそ、このようなツバメの子育ての自然観察が見られる楽しみがあるのだな一と思いました。

共存共泳

片野 令子

秋に入ったある朝、白子川左岸(畑のある方)をいつものように、もしかしてカワセミが猟をしているかなと、のぞいてみた。

すると、白赤模様の大きな鯉とカルガモがゆうゆうと並んで泳いでいる。その間にもう一つしっぽをふりふり懸命に泳いでいる動物が。何とネズミ。並んで泳いでいる光景にもうびっくり。下流から上流へ、オオフサモまで泳いで、ネズミはオオフサモにもぐってしまったのだ。



我家では、一匹のネズミに住みつかれて、毎夜マラソンに悩まされている。いろいろネズミとりを工夫しているのだが、ヤツもかしこい。共存するしかないかと、あきらめていた矢先なので、三者がゆうゆうと並んで泳ぐ様に、思わず立ちつくし、変な反省をしているところ。

おお、自然の摂理よ、小さな自分よ、共存する白子川よ。しかし、私の本音はネズミをつかまえたい、小さいかな。

東大泉6丁目に昭和 35 年より在住の渡部薫と申します。白子川源流の会に私は昨年、そして姉夫婦が今年入会させて頂きました。

きっかけは、大泉第二中学校時代同級生であった永井薫さんの「川に入ってみない?」。加えて彼女の、川のみならず子育てを経験して初めて湧き出る子供たちへの思いも含めた熱いメッセージでしたでしょうか?

私は幼稚園、小学校と目白、ひばりが丘に通ったせいか、地元で遊んだ記憶が殆ど無く、川の存在も実は知らなかったのです。川に入れるなんて・・・小学校の頃の、あの何でも体験してみたいという遊び心が復活・・・即日、白子川の清掃に参加。それから・・・源流祭り、竹炭作り、竹のキャンドル作り、近隣の歴史／聞き取り調査、次々に参加させて頂き、会の活動に突っ込んだ片足は両足になり・・・いつのまにやら運営委員も仰せ付けられていました。

サラリーマン生活にどっぷり浸かり、週末の地元の恩恵は石神井公園の散歩・・・といった生活に、白子川を通じ、生活している拠点へ目を向けることが出来た有難さを感じています。昨年初めて聴かせていただいた地元小学生たちの研究発表は大人顔負けのすばらしいものであったと兄、姉も関心しております。大いなる期待を持ち、出来る限りのメッセージを共に楽しみながら作り、伝えていきたい・・・この活動に関わっている方たちの願いに違いない、その一助になればと思っている一人です。

P.S. ちなみに歌いたい方、パソコンにお悩みの方ご相談下さい。姉兄である藤田寿一、操がお役に立てる可能性あり。



昭和 37(1962)年、南大泉の生活が始まった

大泉に越した頃の話(その1)

池野 明男

私の両親は文京区駒込曙町から立ち退く為、練馬区をあちこち探し回った挙句、ようやく保谷駅北口から 3~4 分の住居に落ち着きました。駒込のアパートに残る私達新夫婦(当時はね)は、母の「二重の出費だから是非こちらに」とのたつての要望でやむなく引っ越して、二世帯同居となったのです。

しかし上下水道ガス完備の場所から、越した家の上水はポンプ井戸、下水は吸込式、春先は「黄塵万丈」の内も外も砂まみれでクリーナーもすぐ動かなくなり、夏は蚊帳をはり、「トイレ」なんていう名前もなかった便所は汲取式のパチャンドボン型式のいたらく。唯一の救いは庭の広さで 180 平米(約 60 坪)あり、東側は細いが杉が数本植わっていたこと。だが何しろ、昨今の言う処のインフラが不完全で、周囲の畑には肥溜が点在し、小学校の PTA が設けた



(当家へ庭)

84年頃の南大泉の様子。左には沼やKの園地がある。掘り二階が見た南大泉。また、左には沼やKの園地がある。

(左大泉沼に在住 池野明男)

「肥溜転落防止」の注意札が立てられており、道路は都道も区道も、凸凹の部分的アスファルトの砂利道で、側溝(下水溝)も汚水溜と化し、雨降りの際は時折迫る車の雨溜りからのハネを防ぐため傘を曲げて歩く有様。

西武電車の踏切も至って狭く、広い所で一車線半、大泉東踏切も、車が一台ようやく通れる狭さ。電車の運転は大体 15 分間隔、通勤時は 6 両編成で池袋迄 35~40 分掛かりました。当時の保谷駅では、電車のホーム(半分しか屋根なし)から降りると、駅手が手旗を持ち、手動で踏切棒を上げ、乗降客を駅改札口に誘導します。その出改札口の駅玄関の床は、コンクリートでなく土を固めた代物なのに驚かされました。

私はここへの転居は大反対で、両親に猛烈に抵抗し、当座 3、4 カ月は佐藤春夫ではないが『田園の憂鬱』をかこっていました。その理由の一つは、職場への通勤です。父は医官で清瀬の都立病院に通っていたので職場は近いが、小生は川の手の墨田区の役所に 2 時間半もの「超距離」通勤で住生しましたよ。(次号つづく)

ザクロ 柘榴 について

大塚 重雄

私の家のお墓は南大泉の妙福寺に有ります。昔より鬼子母神様のそばには、ザクロの木が植えてあります。そのわけは、鬼子母神様は人の肉が好物で、幼い子供の肉を度々食するので、オシヤカ様がザクロの実は人肉と同じ味がするので此れを食しなさいとくたされ、それ以後は、鬼子母神にザクロは付いている。

妙福寺内のザクロの木についてお話しします。

■平成 10 年 3 月 石神井にあったザクロの根元から生えた 20~30cm の子木を 10 本、庭に植えた。■平成 16 年 妙福寺住職へ、小さいがザクロの木の寄付を申し入れた。■平成 17 年春 植樹場所を設定、前年 7 月花が咲いた 3 本のザクロの木を寄贈。境内の小型角石で円形を作り、土を天地し、肥料を施し、支柱を立て完了。■平成 18 年時々手入れ、水やりする。寺内の高橋氏の協力もあり、順調に育ち青々として、高さも 2m くらいに成った。■平成 19 年 家に残した 2 本には花が咲き、実もついたが、妙福寺の木には花がつかず。■平成 20 年 6 月 家の 2 本には花が 20 個、妙福寺の木は 2 個。追肥し、1 週間後に花が 15 個ついた。7 月、家の木も妙福寺の木も結実なし、なぜか？

大塚さんのメダカの DNA は？

= 解析結果が出ました。 =

10 月、会員の安藤さんから「・・井の頭自然文化園・水生物館の荒井さんという方が、大塚さんのメダカの DNA 解析させて欲しいそうです・・」との連絡があり、さっそく 11 月 2 日に菅沢・本田で、荒井様のほか葛西臨海水族館の方、多摩動物公園の方も来られて源流でお会いし、大塚さん宅へお伺いしました。

大塚さんから細かく飼育状況の説明を受けたあと、いよいよ、DNA 鑑定のために 17 匹のメダカを渡しました。さて、1 ヶ月後の解析結果は驚くべきものでした。(菅沢)

.....以下は、荒井様からのご報告(抜粋).....

DNA 解析の結果は、すべて「東日本型」で、他の地域からの移入の形跡は認められませんでした。「東日本型」のほかには、「東瀬戸内型」「西瀬戸内型」「北部九州型」「山陰型」など、いくつかの型が知られています。

大塚さんのメダカは、もとは、武蔵関のぼろ市で購入し、その後は、血の更新のために購入したものをときどき混ぜていた、とおっしゃっていましたから、いろいろな地域のものが混ざっている、と考えざるを得ませんが、大塚さんのメダカが、すべて東日本型だったことは、不思議なこと、こちらとしても驚きの結果でした。

地域に支えられた「源流まつり」

——10月12日 第8回の報告——

今年もまた、実りある「源流まつり」が開催できました。

毎年のことですが、直前になっても「たくさんの人で賑わうだろうか」と心配してしまい、前日の準備中に会場で遊んでいる小学生に聞いてみました。——「あしたここで、まつりがあるんだけど知ってる？」—— 子どもたちはポカーンとしている。ああ、まだまだ宣伝不足なんだと反省していたら ——「あっ！ 源流まつりだよね！ 知ってるよおー」と。ホッと胸をなでおろした。大丈夫だ！ たくさん来るぞ！

当日は快晴の下、多くのみなさまのご協力の下で、実り多い内容となりました。紙面を借りて厚く厚くお礼申し上げる次第です。

——後援をくださった、練馬区環境保全課・教育委員会・都市整備公社まちづくりセンター・練馬区社会福祉協議会、多大な品物や協賛金の形で応援くださった地元の商店・企業・団体、ボーイスカウト練馬17団、井頭町会南大泉1丁目町会、みどり広場運営委員のみなさん、東大泉児童館のみなさん、会員の知人友人の方々、そして、白子川源流・水辺の会のみなさん。

源流まつりは、確実に地域に密着してきました。きっと、参加して下さる人々が祭りを作りあげてきたとも言えます。

白子川という自然の“公共物”のおかげで、「川を縁にした出会いの場」が今年もできたことが何よりの収穫でした。

このような「出会いの場」が、「まちづくり」という観点からも、貴重な源泉となっていると思います。

源流まつり実行委員長 菅沢 博

8回にわたる祭りを通じて発信し続けてきたメッセージは、きっと、多くの方々に伝わっていると思います。来年も、今年以上の充実した祭りとしたいものです。



「メダカ通信」紹介

田中 麗子

今年の源流まつりでも、メダカのプレゼントを行い、ハガキも渡しました。白子川の「メダカ博士」こと、会員の大塚重雄さんが手塩にかけてそだてた600匹のメダカたち(一部ギンプナもあり)、各家庭ですくすくと育っているようです。ありがとうという言葉とともに、成長の様子や質問を書いた13枚の可愛いハガキが大塚さん宅に届きました。



～寄せられた質問～

■メダカが大きくなってもメダカですか？寿命はどのくらいですか？(南里莉菜ちゃん)

大きくなってもメダカです。育った環境にもよりますが、大体2年くらいです。大切に世話をしましょう。

■メダカが卵を産むにはどういことに気をつければいいですか？(牛越京子さん、稲毛田大輝くん)

まず、メダカが元気なこと、オス・メスで飼うことが挙げられます。卵は春先に水草(マツモやアナカリス)に産みます。卵は食べられてしまうので、見つけたらすぐに親と別のゾーンに移します(区切られていれば同じ水槽でOK)。白くにごった卵は受精していないので、水槽か

ら出してあげてください。ふ化までは水温により違いがありますが大体10日、早ければ5日くらいでしょう。えさは親と同じえさを細かく砕いて与えます。

私も、メダカを飼ったことがあります。最初はヒーターやエアレーションをつけたりしましたが、水草や水温、適度な水換えをすることが一番大事だと思いました。川は常に流れ、ヒーター・泡のぶくぶくはありません。自然界と同じような環境を作ってあげると、元気に育ち、卵もたくさん産むと思います。ほかの魚たち(金魚やドジョウ)とも一緒の水槽で大丈夫だと思いますが、繁殖させるのであれば、メダカのみ単独で飼うことをおすすめします。

* * *
大塚さんへのご質問(冬場の育て方・注意点等)がありましたら、当会までご連絡ください。

これぞ 地元商店主のパワー！

～佐倉の魅力にふれるツアーに参加して

今年10月、新たに観光庁が発足しました。これは、21世紀における日本の産業政策の一つとして、“観光立国化”を推し進めることを意味するものと思います。しかしながら、観光政策と一口に言っても、今や、風光明媚な景勝地だけでは見向きもされず、プラスαとして、求められる付加価値の創造は容易なことではなく、その実現は前途多難、と思うところである。

さて、とはいっても、心を大きく揺さぶられる旅ってやっぱりあるんですね。去る11月17日、菅沢代表と一緒に、“大泉宝店を目指す会”プロデュースによるバス旅行に参加し、千葉県佐倉市にある「佐倉きのこ園」と「地ビール工場ロコピア醸造場」、そして成田の命泉「大和の湯」を巡り、“旅の真髄”を味わって参りました。

“大泉宝店を目指す会”とは、富士見商店街のもんじゃ焼きのわらべさん、井頭商店街のツアーリストの太平観光さん、学芸大付属小学校前の三又酒店さん、白子川の七福橋近くの(有)小林管工さんをはじめとする、地元の若手商店主をメンバーとする異業種交流の会である。

今回の旅の目玉は、もんじゃ“わらべ”さんのバター焼きで、超人気食材の“肉厚長生き椎茸”を栽培している佐倉きのこ園での“きのこ狩りとバーベキュー”。斎藤園長のお話によると、椎茸の栽培は、米糠とクヌギの粉碎木端材のブレンドの栽培床を用い、地下50mの井戸水のみで行っているとのこと。害虫とカビは、全て手作業で取り除く完全無農薬。生産者の苦労を分かち合える仲間にはか卸していないため、卸先は東京の5つの飲食店に限られている。とすると…、わらべさんで“肉厚長生き椎茸のバター焼き”を食べるのは、宝くじに当たったに等しい確率と言えるのでは。一行は皆で、椎茸に塩や醤油をかけ、生のまま食しました。ホクホクサクサクシコシコした舌触り、ふぁ〜んと漂ってくる椎茸の香り、食べがいのあるボリューム、そして、生産者の顔が見える安心感、“肉厚長生き椎茸”が過大なキャッチコピーでは

ないことは確かでした。

さて、旅の目玉の二つ目は、地ビールとしては世界最小規模(10坪程)を誇り？女性ブルワーズが製造から販売まで一人でこなす“ロコピア醸造場”の見学。ロコピアとは LOCAL BEER の略で地元のビールという意味。本格派ドイツスタイルの地ビールで、原料のホップ、モルトはドイツから輸入。開設当初の苦労は、聞くも涙語るも涙であったらしいが、その後のコンペの受賞歴は素晴らしく、三又酒店の店主比留間さんから、<ジャパンビアカップの金賞>はスゴイ！とお話がありました。3種類のビールを飲み比べると、第三のビールでは決して味わい得ない個性派揃いで、上手い旨い美味しい巧い！HPの受賞歴欄に“2007年醸造責任者出産のため1年間製造を休業”とありますが、ブルワーズは小柄でかわいいヤンママ。原料と温度と時間の管理に全てを掛けているという、ヤンママブルワーズの今後の更なる活躍が楽しみである。

今回の旅は、椎茸栽培とビール製造と全く異なる現場でしたが、どちらも、生産者と消費者の顔が見えるところが共通していました。

旅の幹事長・わらべの加藤さんは、ご挨拶の中で、「売って善し、買って良し、地域好し」という近江商人魂を心して、商売に励んでいる、最高の自己満足度を得るために」と云われました。食材へのこだわりを超える、“ウルサイくらい”の気遣いで、お店を切り盛りしている“元気印”の店主の崇高なる精神に接し、この大泉の地が更に大事に思えた、心震え

揺さぶられた旅でした。

“大泉宝店を目指す会”の皆様、大変お世話になりました。旅の感動は、風光明媚な景勝地という資源だけにあるのではなく、旅で出会う「人」という資源を介してはじめて深まるものであるということ、皆様方とご一緒させていただき改めて実感致しました。

であれば、資源は尽きず、日本の観光立国化も夢ではないのかもしれない。

であれば、白子川が、練馬区民の、練馬区民による、練馬区民のための「観光資源」として認知されるべく、水辺の会の財産である人という資源を借しむ無く注ぎ込みたいものである。

<会員(東大泉7丁目)永井薫>



アサギマダラ

焦茶の地に青みがかった白のまだら紋様の羽を持ちます。羽の大きさは6cmくらいの大型の蝶です。

5月頃から10月頃まで火の橋から緑橋にかけてのミズヒマワリの花蜜を吸いながら生活し、冬は台湾の方まで渡っていくといわれています。



会員募集中!!

白子川の水辺環境の保全活動と一緒に参加しませんか。

毎月第四日曜日1時半から、大泉井頭公園内にて川掃除等を行なっていますのでお立ち寄りください。



- ◎正会員 年会費2,000円
- ◎世帯会員 年会費3,000円
- ◎法人会員 1口2,000円以上
- ◎通信購読会員 年会費1,000円
(学生は無料)

★督促★ 年会費が未納の方が見受けられますので、早急に収めてください。

みずほ銀行・虎ノ門支店・普通預金 2827776
口座名「白子川源流・水辺の会」

会のホームページをご覧ください。

http://www.geocities.jp/sirako_river/

私達の活動内容、白子川源流の状況、貴重な湧水が湧いていること、水質、生き物、四季の風景などをわかりやすく掲載していますので、ぜひご覧ください。

(「白子川源流・水辺の会」と検索)

前号会報の訂正とお詫び

会報24号3ページの表題に誤りがありました。正しくは、以下のとおりです。お詫びします。
「新河岸川流域 身近な川の一斉調査」
に協力しました

編集後記

●最近の電車の中はやたら寒い。扇風機や空調機がガンガン回ってる。くしゃみや鼻をすする人が多勢いる。かつては、窓ガラスを拭いて外の景色を眺めたものだ。そして、汗ばむほど暑かった。寒い日は電車に乗ると暖かさにホッとした。しかし、今ははっきり外が見える。ホームに下りると暖かさにホッとす。温暖化防止に炭酸ガス削減が叫ばれているこの時勢に、逆行する行為ではないのか！冷房機と扇風機を止めて欲しい！と思うのは私だけなのだろうか？ (渋谷)

※この会報は年3回発行しています。

発行 白子川源流・水辺の会
代表 菅沢 博
03-3923-8430
事務局 練馬区東大泉 6-36-4-301
副代表 本田 純
03-3924-9181
編集 渋谷 瞭司
題字 宮本 沙海

白子川グッズ

自然と生き物を育む井頭池。ここから流れる100%湧水の白子川。

この川が、地域の宝として親しまれ、守られることを願って、私たちは「白子川グッズ」を作りました。素敵なアイデアと汗の結晶が、川を守る活動資金になります。自慢の品はいつでもお求めできるよう順次、練馬の「ねりコレ」に申請予定。乞うご期待！



みんなの白子川プレート ¥500

旭出学園製作の木製プレートに、金属工房セブンポイントの岡島氏製作の焼印が押しあてられている。白子川を見守るシンボル。



カルガモのミニプレート ¥100

(白子川源流まつりで、焼印体験できる)



白子川の絵はがき(8枚セット) ¥800



会報の表紙を飾る、会員・萩原さんのスケッチと同・山科さんの写真。四季折々の井頭公園や白子川沿いの懐かしい風景。



わら筆 ¥300

今期、白子川源流まつりで初登場。自分流に穂先を叩いて完成させる。高橋会員のアイデアが好評を博した。



竹炭 ¥150

地元、みどり広場の竹で作る。会員たちの炭作り研修の賜物。